

第5回 「家族のきずなエッセイ」 作品集



発表・表彰：令和6年12月8日（日）砥部町中央公民館

主 催：愛媛砥部モラロジー事務所

後 援：砥部町・砥部町教育委員会・砥部町小中学校長会・
砥部町PTA連合会・モラロジー道徳教育財団

協 力 校：麻生小学校・宮内小学校・砥部小学校・広田小学校
砥部中学校

モラロジー教育では「3つの心」を育てます

思いやりの心

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す寛容さや周囲を手助けする深い優しさを育てます。

感謝の心

大自然の恵みや家庭、国の恩恵などに対する感謝の心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切に尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

自立の心

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、良き家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、自ら地域や国際社会に寄与する意思やたくましさを育てます。

愛媛砥部モラロジー事務所は、公益財団法人モラロジー道德教育財団より設置を承認された団体であり、よりよい社会づくりに貢献することを目的とした社会教育活動を行っています。

モラロジー道德教育財団は、倫理道德の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15(1926)年の創立以来、「道德で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸問題の道德的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。

モラロジー(morality)は、「道德」を表すモラル(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学術名で、「道德科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道德の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした「総合人間学」です。

目 次

◇ ごあいさつ	愛媛砥部モラロジー 事務所 代表世話人	和田 耕司 . . .	2
◇ 講 評	選考委員長 元伊予市立北山崎小学校長	小田 直行 . . .	3
◇ 「家族のきずなエッセイ」入賞作品一覧			4
◇ 「家族のきずなエッセイ」入選作品一覧			5
◇ 入賞作品			6~10
◇ 入選作品			11~35
◇ 資 料			36

募集要項

応募状況・選考委員

協賛企業・個人

ごあいさつ

この度、愛媛砥部モラロジー事務所主催の第5回「家族のきずなエッセイ」募集を町内の小中学校児童、生徒の皆様を対象にお願い致しましたところ 406 編もの多くの作品を寄せてくださいました。この冊子には入賞 5 編、入選 25 編、合わせて 30 編の作品を掲載しております。

ご応募いただいたエッセイは、両親やおじいちゃん、おばあちゃんへの感謝、家族をもっと大切にしようと思ったことが、「家族のきずな」の大切さを考えさせられる心温まる作品になったと思います。

校長先生をはじめ担当の先生方、保護者の皆様のご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

また、このエッセイ募集の活動にご後援いただきました砥部町、砥部町教育委員会、砥部町小中学校長会、砥部町PTA連合会はじめ、多くの協賛いただきました企業、個人の皆様にご心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

また、第1回より選考委員長として企画、運営にご協力いただいております小田直行先生はじめ選考委員の皆様には大変お世話になりました。感謝申し上げます。

最後になりましたが、この取り組みをとおして、家庭、学校、地域が一体となって、子供たちの豊かな心を育てる契機になることを願っております。応募いただいた児童、生徒の皆様に感謝申し上げます。ごあいさつといたします。

愛媛砥部モラロジー事務所
代表世話人 和田耕司

講 評

「家族のきずなエッセイ」入賞・入選おめでとうございます。

愛媛砥部モラロジー事務所主催の第5回「家族のきずなエッセイ」募集には、406編の作品が寄せられました。甲乙つけがたい作品が多く、その中から町長賞、教育長賞、PTA連合会賞、モラロジー道徳教育財団賞、愛媛県モラロジー協議会賞を選ぶのは難航いたしました。

講評を書くに当たって何度も子供たちの作品を読み返してみると、子供たちは様々な機会に家族の中でしか学ぶことができない学びをして成長していることが分かりました。基本的な生活習慣や能力、人に対する信頼感や思いやり、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを通して、家族それぞれの役割を実感し実践しています。私たちも生きる力を育む「家族のきずな」を改めて見直していきたいと思いました。

大多数の子どもたちの文末表現は、「言った」「作った」「した」といった行動描写表現ではなく、相手の動作やしぐさに対して感謝や信頼や尊敬などの気持ちを込めて、「言ってくれた」「作ってくれた」「してくれた」などと書いています。家族のきずなに気付き、思いやりに感謝し、一人ひとりが何をしたらよいかを考えることは大切なことだと思います。

今回特に印象に残ったのは、安心して過ごせる居場所としての家族だけでなく、離れて生活している祖父母を中心に、家族への愛や感謝の気持ち、いのちのつながりを素直に表現した作品が多くありました。子供たちは、「別れは何時くるかわからないから大切な人との時間を大事にしよう」とがんばっています。また、父親のことを書いた作品では、家に帰るとすぐ寝てしまう父親のがんばりすぎを心配して心を痛め、自分の言動を振り返り、力強く生きていこうと努力している姿を書いています。さらに、親が見方や考え方、行動の仕方を一方的に押し付けるのではなく、子供に寄り添いともに成長していく家族の姿勢を書いた作品には共感しました。このようなあたたかい家庭で育った子供たちは、困難な状況に出合っても助け合って生き抜く力を身につけ成長していくことでしょう。

最後に、「家族のきずなエッセイ」にお寄せいただいた子供たちと応募に際して支援して下さったご家族、先生方、審査にご尽力を賜りました選考委員の皆様には感謝申し上げます。このエッセイをきっかけにして、それぞれのご家庭が「家族のきずな」を再認識し、思いやりの輪がいつそう広がっていくことを期待してります。

選考委員長
元伊予市立北山崎小学校長
小田直 行

令和6年度
第5回「家族のきずなエッセイ」入賞作品一覧

* 砥部町長賞

松下 花奈 砥部小学校 6年 6
小さな警察官

* 砥部町教育長賞

十亀 羽暖 宮内小学校 4年 7
100さいのひいじいじ

* 砥部町PTA 連合会賞

高橋結衣子 砥部中学校 1年 8
本当は感謝しているよ

* モラロジー道徳教育財団賞

得居 希心 麻生小学校 4年 9
家族の大切さが分かった時

* 愛媛県モラロジー協議会賞

若林 大翔 広田小学校 5年 10
かぞくとのきずな

入選作品一覽

< 入 選 >

安永 圭季	宮内小学校	2年	わたしの妹・・・・・・・・・・	11
松下 綾芽	砥部小学校	2年	かわいそうだけどがんばりやのパパ	12
板橋 吾樹	宮内小学校	3年	じいじのおはかそうじ・・・・・・・・	13
徳永 朔那	砥部小学校	3年	ぼくのお父さんはせかい一・・	14
武内 一平	宮内小学校	4年	ぼくのおじいちゃんとおばあちゃん	15
松下 実咲	砥部小学校	4年	元気なばあちゃん・・・・・・・・	16
豊田 雅人	広田小学校	4年	チームワーク！！家族の畑作り	17
井谷 陽葵	宮内小学校	5年	世界でたった一人の大切な弟	18
高智 春来	宮内小学校	5年	家族のきずなを感じた時・・	19
菅 晴真	宮内小学校	5年	お父さんみたいなおとなになりたいな	20
谷口 光樹	砥部小学校	5年	安心できる場所・・・・・・・・	21
中田 優音	砥部小学校	5年	元気で楽しく生きてねいおばあちゃん	22
鶴井 菜々美	宮内小学校	6年	ありがとうが言える人・・	23
本山 結愛	宮内小学校	6年	家族の笑顔は私の宝物・・	24
乗松 美月	宮内小学校	6年	家族のために・・・・・・・・	25
渡邊 聖紘	砥部小学校	6年	ケンカするほど仲がいい？	26
竹島 凜	砥部小学校	6年	ばあちゃんの手作り梅シロップ	27
大森 実咲	砥部中学校	1年	私のお姉ちゃん・・・・・・・・	28
米井 健登	砥部中学校	1年	この家族になれてよかった理由	29
小池 龍太郎	砥部中学校	1年	命をつなぐということ・・	30
井谷 杏華	砥部中学校	1年	私の宝物・・・・・・・・	31
遠藤 裕希	砥部中学校	1年	別人、されど、家族。・・	32
上田 龍征	砥部中学校	1年	剣道でうまれたきずな・・	33
津田 栞花	砥部中学校	1年	命について・・・・・・・・	34
相原 心愛	砥部中学校	1年	家族の愛を感じたしゅんかん	35

砥部町長賞

小さな警察官

砥部小学校 6年 まつした 松 下 はな 花奈 さん

私には3歳の妹がいる。生まれた時はとっても可愛い妹だった。ずっと可愛いまま大きくなると思っていたけど、今では「魔の2歳児」を通りこし、口の達者なまるで小さな警察官だ。4姉妹の末っ子だから成長も早いのだ。私がおかしを食べていると、わざわざ私の横に来て大きな声で、「ママーお姉ちゃんがご飯の前におかし食べてるー」と言いつける。ときには、「家のお片づけをしてから遊ぶんだよ」なんてアドバイスまでしてくる。それなのに、幼稚園の先生には大人しくてとてもいい子です、なんて言われているからびっくりだ。

そんな妹だけど、私がバスケットの試合に出ていると、誰よりも大きな声で応援してくれる。少し恥ずかしい気持ちもあるけど、小さな妹の声は私にとって大きな力になる。妹はいつでも家族に笑顔とパワーをあたえてくれる。なまいきだけどやっぱり私にとって可愛い妹だ。

砥部教育長賞

100 さいのひいじいじ

宮内小学校 4 年 そがめ はのん
十亀 羽暖 さん

私のひいじいじは今年の6月15日で100さいになりました。ひいじいじの子どもやまご、ひまごたちでたん生日パーティーをひらきました。パーティーのために、折り紙や風せんを使ってかざりつけをたくさんしました。プレゼントには、みんなでアルバムを作りました。みんなからの一言や顔写真、思い出の写真がはってあります。いつでも開いてみてくれたらいいなと思って作りました。プレゼントをわたすとひいじいじはニコニコとよろこんでいました。そのあとたん生日の歌を歌ったりごはんやケーキを食べたり楽しい時間をすごしました。

私はひいじいじが大好きです。私がうまれてきた時には、ひいばあばも元気でいたので、1 番に病院にかけつけてくれたそうです。2 人ともすごくやさしくていつも笑顔です。私もひいじいじみたいに長生きしたいです。また来年も楽しい101さいのパーティーをひらきたいです。

砥部町 PTA 連合会賞

本当は感謝しているよ

砥部中学校 1年 たかはし 高橋 ゆいこ 結衣子 さん

何か変な感情で、本当はとても感謝しているのにそれを言葉にできなくて、ちょっとしたことで、言い返してしまったり、反発してしまう。おいしいご飯を毎日つくってくれて私にはかかせないとっても大切な人なのに、なぜかきつくあたってしまう。だけど心の底から感謝している。この気持ちきづいてほしい。だけど悪いのは私だから。本当の気持ちを伝えたいけどはずかしくて言えない。「ありがとう」の一言も最近、はずかしくて言えていない。これは「反抗期」っていうやつなのかな。私にもこんな日がくるんだなと思った。これまでも「うざい」と思ったことはあるけど、今の気持ちはちょっと違う。今までにない気持ちで、何か不思議。お母さん、お父さん、本当は違うよ。つよくあたってごめんなさい。本当はとっても感謝しているし大好きです。これからもよろしくお願いします。

モラロジー道徳教育財団賞

家族の大切さが分かった時

麻生小学校 4年 とくい 得居 そあ 希心 さん

ぼくが家族を大切だと思った時は、お姉ちゃんが交通事故にあった時です。

事このれんらくが来た時、お母さんは不安そうでした。お父さんも仕事をやめて、すぐに帰ってきました。3人で病院に向かっている車の中で、ぼくはお姉ちゃん大じょうぶかなあと不安でむねがとても苦しく感じました。病院までがとても遠く感じて、お姉ちゃんのけががひどくありませんようにとずっと心の中でねがっていました。ふだんはけんかもよくして、お姉ちゃんのことをいやだななどと思っていたけれど、じっさいに事ここにあつてお姉ちゃんがどんなケガをしているか分からない時、こんなにも不安になってこわく感じるのだと思いました。病院につき車イスに乗ってぼくたちの方を笑顔で見たお姉ちゃんを見て、心が苦しかったのがすっとなくなりました。この事こで家ぞくがいつもいっしょにいることが当たり前だと思っていたけれどちがうということに気づき大切だと分かりました。

愛媛県モラロジー協議会賞

かぞくとのきずな

わかばやし ひろと
広田小学校 5年 若林 大翔 さん

ぼくは小さい頃から保育園へ行っていて、家族と長い時間離れていることが多かったのですが、悲しい気持ちになったことは、ありませんでした。

今回、山村留学で、埼玉県から愛媛県に来て、初めて家族と離れての生活がさびしくて毎日毎日泣いていました。

けれども、センターでの生活に少し慣れてくると、センターの子や学校の友達、職員さんや先生はみんな優しく、友達もたくさん出来て、愛媛での生活もとても楽しくなってきました。

それでも、時々家族を思い出すとさびしくなる時もあります。今までは、家族と過ごすことや兄弟と遊んだり、ケンカすることはあたり前と思ってきたけど、家族に対してきずなを感じるいい経験になっていると思いました。

これからも、人とのきずなを大事にしていきたいと思います。

入選作品

わたしの妹

宮内小学校 2年 やすなが 安永 けいり 圭季 さん

わたしが1年生の時の夏休みに妹がうまれました。妹はびょうきだったから、うまれてもなかなか会うことができませんでした。ママとパパだけ会うことができずるいと思いました。びょうきがなおるかしばいでした。夏休みだったけど、ママがいない時があって、いつもの朝ごはんではなかったし、あそびに行ってもママがいなくてさみしかったです。

妹が、おうちにかえってきたとき、はじめてだっこをしました。ちょっとおもたくてはじめてだったからとってもはずかしい気持ちになりました。でも、うれしくて「女の子だからいっしょにあそべるな」と思いました。今はだっこもなれて、はじめてあった時よりもっとおもたくなりました。かわいいです。はいはいが上手で、ちょっとあるけるようになりました。ことしの夏休みは、ママもパパも妹もいます。外あそびやトランポリンをするのが楽しみです。妹が1年生になった時、この作文を見せたいです。

入選作品

かわいそうだけどがんばりやのパパ

砥部小学校 2年 まつした 松下 あやめ 綾芽 さん

うちのパパは朝 6 時半におしごとに行って、夜 10 時ぐらにかえってきます。いつも 6 時間くらいしかねていません。私はまいにち 10 時間くらいねているけど、パパは 4 時間ぐらねる時間がみじかいので、私はパパがかわいそうなパパだなあと思いました。休みの日は朝になってもおきないパパを見て、そんなにつかれているなんてかわいそうだなあと思いました。私はベッドにねてるパパを見て考えました。私はいつも休みの日にねているパパをおこしていました。なぜかという、パパとあそびたいからです。でもこれからは、ねているパパをおこさないようにしようと思いました。なぜかという、まいにち朝から夜までおしごとをがんばっていてパパがつかれているのを私は知っているからです。かわいそうなパパだけど、いつも家族のためにおしごとをがんばってくれています。でも、たまにははやくおきていっしょにどうぶつえんとか行こうね。

入選作品

じいじのおはかそうじ

宮内小学校 3年 いたばし 板橋 あき 吾樹 さん

ぼくは、お父さん、お母さんといっしょにおはかそうじをすることがあります。

久万にあるじいじのおはかは、山道を歩いていくのでこわいんです。おまけに広いところをゴシゴシこすってきれいにするのは、時間がかかります。すごくあせをかいてそうじをするのは、大変だけどきれいになるといい気持ちになります。

じいじは、ぼくが生まれる半年前になくなったので、会ったことはないけれど、お父さんやお母さんから、じいじの話をいろいろ聞いています。だから、あまりおしゃべりをしないことや、やさしい人だったことをしています。

おはかのコップがわれると、お父さんの体の調子がわるくなります。じいじは、だまっけていてもしらせてくれるのです。だから、これからも家ぞくでおはかそうじをしたいと思います。

入選作品

ぼくのお父さんはせかい一

砥部小学校 3年 とくなが さくとも
徳永 朔那 さん

ぼくのお父さんは自まんのお父さんです。なぜかという、
「一緒にゲームをしよう」と言うと、仕事から帰ってきたばかり
できっとつかれてるのに、いつも「いいよ」と言ってくれる
からです。それだけではありません。家のことも「あとでやる
からおいといていいよ。先にお風呂入っていいよ」と言い自分
でしようとしたり、「〇〇があったらな」と言うとお父さんは
「じゃあ、つくろうか」と言って、本当につくってしまうから
いつも「ぼくのお父さんはせかい一」とみんなに自まんしたく
なってしまいます。ときどきむちやをするからそこは直してほ
しいなと思います。仕事だからしょうがないけれど、指がいつ
もボロボロなのでとても心配です。お父さんのわるいところは
がんばりすぎてしまうこと、もう1つはやさしすぎることです。
いつも仕事に行ってて家にかえるとすぐねるのでそれほどつ
かれたのにゲームをしてくれるので、ぼくはお父さんみたいな
人になりたいです。

入選作品

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃん

宮内小学校 4年 たけうち いっぺい 武内 一平 さん

ぼくのおじいちゃんとおばあちゃんは農家です。夏休みで77さいになります。ですが、遊びにつれていってくれたり、習字を教えてくれたり、料理を作ってくれたりします。2人は農家なので、いつもお米や、野菜をとどけてくれます。新せんで、おいしい野菜やお米をとどけてくれるので、病気やけがが少なく、けんこうな毎日をすごせています。少しでも、おじいちゃんとおばあちゃんの苦勞をへらせるように、毎年6月には田植えを、10月にはいねかりをいとこみんなの手伝っています。その野菜やお米は、残さず食べて、せをのばして体も大きくして、最近始めたバスケットボールで、もっと活やくできるようになりたいです。そして、そんなすがたをいつもおうえんしてくれるおじいちゃんとおばあちゃんに観てもらって、よろこんでもらいたいです。そしていつまでもけんこうで、長生きしてもらって、たくさんお出かけをして思い出をたくさんつくりたいです。

入選作品

元気なばあちゃん

砥部小学校 4年 まつした 松下 みさき 実咲 さん

私のとなりの家にばあちゃんが住んでいます。私のばあちゃんにはいいところが3つあります。それは、優しいところと面白いところと元気なところ。私が悲しんでいるときにはなぐさめてくれるし、笑わせてくれます。だから、ばあちゃんの周りではみんなが笑顔です。でも、その中でも笑い声が一番大きいのはいつもばあちゃんです。ばあちゃんが子供みたいに見える時もあるけど、もう67才です。時々血圧を測りながら、「ばあちゃんは今すぐ死んじゃうよー」と言ってくる時もあります。少し心配になる時はあるけど、お米を作ってくれるし、野菜を作ってくれるし、お父さんとお母さんがお仕事でいない時は、わたしたちのためにサポートしてくれて、ばあちゃんのおかげで安心して生活ができています。

私は大きくなって砥部に住むかわからないけど、今は自然がいっぱいでばあちゃんがいる砥部が大好きです。

入選作品

チームワーク！！ 家族の畑作り

とよた まさと
豊田 雅人 さん
広田小学校 4年

ぼくの家族は全員で畑作りをしています。たい長はお父さんで、副たい長はお母さんです。たい員は、ぼくと弟です。

畑では、お父さんがたねからなえ作りをして、土をたがやして、うねをせいびして、大きくなったなえをうえています。お母さんは、お父さんのお手伝いをしています。

ぼくと弟は、道の石拾い、荷物運び、草むしり、ほかにもお父さんにたのまれたお手伝いをしています。

今までの大しゅうかくの中で1番心にのこったのはじゃがいもほりで、ハンドボールのように大きいものがとれました。ほかにも、玉ねぎやにんじんや落花生、1つ1つとるのは大変でしたが、楽しかったです。

しゅうかくした野菜はおいしく料理して食べています。お母さんがジャガイモで作ったベイクドポテトは神おいしいです。

これからも、家族全員のチームワークで畑作りをがんばります。

入選作品

世界でたった一人の大切な弟

宮内小学校 5年 いたに ひまり 井谷 陽葵 さん

私は、10さいはなれた8ヵ月の弟がいます。お母さんのおなかの中に、赤ちゃんがいると分かった時、うれしい気持ちでいっぱいだったし、赤ちゃんのお世話を一生けんめいがんばると心の中で決めました。その2ヵ月後くらいには、赤ちゃんのお世話体験ができるイベントへ行きました。おむつかえやきがえなどを体験しました。少しむずかしかったけど、赤ちゃんのためにとってもがんばりました。数日後には、せいべつが分かり、男の子でした。私は弟がまだいなかったので、はねてよろこびました。元気な弟がうまれてくることをねがいました。4ヵ月後には、とっても元気なかわいい弟がうまれました。テレビ電話をして、弟の顔を見たらねていました。ねている顔もとってもかわいかったです。はやくだっこしたいという気持ちですごくいっぱいになりました。帰ってきた日は、ずっとだっこしていましたが、今ではほこうきであそんでいます。ずっと成長を大切に見守っていきます。

入選作品

家族のきずなを感じた時

宮内小学校 5年 こうち はるき 高智 春來 さん

ぼくは、9才の時に、母がわきの下にやけどをおい、病院に長く入院しました。やけどをする前は、その日に剣道があり、時間もあまり無かったので、母が大急ぎで料理を作ってフライパンを取ろうとした時、つけっぱなしにしていたコンロの火が服にうつり、母が助けをよびました。しかし、ぼくと弟は、その時あわてていたので、何をするのかが分かりませんでした。結局、母の周りの火を消すのに30秒以上かかってしまいました。何とかきゅう急車をよべましたが、母は入院することになりました。その時は、母のお腹の中には妹が入っていたので、より心配しました。妹は無事でしたが、母はやけどのあとが残ってしまいました。動くのもしんどそうでした。だからぼくと弟は毎日お手伝いをがんばりました。父も仕事が大変だったので、祖母が家に来ることもありました。力を合わせてがんばることができました。これからも自分でできることをふやしていきたいです。

入選作品

おとうさんみたいなおとなになりたいな

宮内小学校 5年 ^{かん}菅 ^{はるま}晴真 さん

ぼくのお父さんは、山で切った木材をトラックで運ぶ仕事をしています。久万高原町からいろいろな所へ運んでいます。大きなトラックを運転しているので安全に運転をしています。お父さんの「ただいま」の声を聞くと、今日もぶじに帰ったなとほっとします。

お父さんのうでの力は強いです。重い物を軽々と持ち上げられます。妹は、お父さんに高くだっこされてとてもよろこんでいます。お父さんはすごいなとおもいます。

お父さんは、ぼくと妹のかみを切ってくれます。30分ぐらいでさんぱつはおわります。お父さんは、ハサミを速く動かしています。ぼくはじっとしてどんなかみがたになるのかたのしみにしてまっています。

ぼくも大人になった時、お父さんのように仕事や家でいろいろなことができる人になりたいです。「お父さんいつもありがとう」とかんしゃしながら、いまできることを力いっぱいがんばりたいです。

入選作品

安心できる場所

砥部小学校 5年 ^{たにぐち} 谷口 ^{こうき} 光樹 さん

ぼくは、今年5年生になって大三島少年自然の家に行ってきました。そこで初めて、ぼくは家族からはなれて、2泊3日友達と先生とすごしました。みんなとオリエンテーリングであるいたり、寒すぎる中いかだ作りをしたり、ナイトウォークで夜道をたんけんしたりして楽しかったです。でも大変だったこともあります。それは、友達が先にねてもぼくはなかなかねむれず、1人で起きているのがこわかったことです。友達もやさしくてぼくに合わせて起きてくれていましたが、いつもねるかんきょうとちがうので、きんちょうしてねむれなかったんだと思います。家族と旅行に行ってもぼくは、すぐにねてしまいます。今回の大三島少年自然の家でのことで、ぼくは家族といることで安心して毎日すごしていたこと、家族がぼくを大事にしてくれていたことがわかりました。ぼくも安心できる場所がずっと続くように家族を大事にしていきたいと思います。

入選作品

元気で楽しく生きてねひいおばあちゃん

なかつた ゆら
砥部小学校 5年 中田 優音 さん

わたしのひいおばあちゃんはとっても元気です。ひいおばあちゃんの家に行くとよくしゃべってくれます。ひいおばあちゃんの話の話を聞いていると、とても楽しくて明るい気持ちになれます。でもときどきめまいがしてたおれたり、目のいたみを感じたりするときがあって休んでほしいけど、ひいおばあちゃんは、「人生どんなことがおきても楽しく生きんと！」と言ってあつい日に田植えをしたりしていて、やっぱりすごいなと思いました。ひいおばあちゃんが家ぞくを明るくしてくれているから今のわたしたちがあるんだなと思いました。だれにでもやさしく明るくできるのはひいおばあちゃんにしかできないすごさだなと思いました。大好きなひいおばあちゃんが遠い山のおくにすんでいても、またあえるとか、次あったときは何をしようかなとか考えています。

ひいおばあちゃん、いつまでも元気で楽しい人生をすごしてね。大好きだよ！

入選作品

ありがとうと言える人

宮内小学校 6年 つるい 鶴井 ななみ 菜々美 さん

私は送り迎えで体験したことがあります。

私が習い事に行くときはいつもお母さんが連れて行ってくれます。ある日お母さんが仕事などで忙しくて習い事に遅れてしまいました。その時、お母さんは

「遅れてごめんね」

と言ってくれました。なのに私は遅れてしまったことに少しおこっていて無視して行ってしまいました。後から考えてみるととてもひどいことをしてしまったなと思いました。いつも仕事で忙しいのに連れて行ってくれているのに「ありがとう」も言えなくて、さらに謝ってもらったのに無視をしてしまって、もっと感謝を持ちたいなと思いました。

これからはこの体験を活かして、習い事に連れて行ってくれたり、行きたい場所に連れて行ってくれたりしたときは感謝を持って「ありがとう」を伝えたいです。そして、お母さんだけじゃなくお世話になった人にはちゃんと「ありがとう」が言える人になりたいです。

入選作品

家族の笑顔は私の宝物

宮内小学校 6年 もとやま ゆい 本山 結愛 さん

私のお父さんは仕事が長いので家族で集まる時間は少ないです。その少ない時間で私にとっての宝物があります。

家族で集まってよくすることは、前の写真を見返すことです。写真をみると、そこに写っている家族と私が必ず笑っていたことに気がきました。前の写真を見ている私達も笑顔でした。

その時に私にとって家族の笑顔は宝物だったことを初めて実感しました。

家族は落ち込んでいる姿を見ると、すぐにかげよってくれて、すぐに笑顔になるから笑顔の葉のようでした。

家族といる時間は、かけがえのない時間で、とても恵まれているのだと改めて感じました。日頃から家族に感謝を持って、家族のためになることをしていきたいし、いつもは私が笑顔をもらっているから、次は私が送る側になっていきたいです。

入選作品

家族のために

宮内小学校 6年 のりまつ 乗松 みづき 美月 さん

私の家には、小さい弟がいます。その弟のお世話をするために、皆で分担して協力しながらしていて、母さんは、保育園に連れていったり、ご飯をあげるなどをしていて、父さんは、お風呂に入らせたり、兄は、遊んであげたり、はみがきをしてあげたり、私は保育園のじゅんぴをしたりしています。

みんなで協力しながら過ごす和家人の仲が深まって楽しい時間になってうれしいです。

弟が大きくなっても、みんなで助け合いながらすごしたいです。

お母さんお父さんお兄ちゃん弟、みんなで過ごす時間を大切にして、これからも、1つ1つの家族の場面を大切にしたいです。お兄ちゃんはあと数年ではなれてしまうので、今のうちにたくさん遊んだり話したりしたいです。家族全員で居られる時間を大切にして、お兄ちゃんをはなればなれになっても、みんなで仲良くくらし、家族全員のことを思える家族になりたいです。

入選作品

ケンカするほど仲がいい？

砥部小学校 6年 わたなべ 渡邊 せつな 聖紘 さん

私の家族は、私が幼いころに父と母が離婚したので、今は母と祖母、祖父、私の4人で暮らしています。

祖母は植物が好きなので庭でたくさんの花や野菜を育てています。私の花好きは祖母の影響かなと思っています。

仕事で忙しい母の代わりに、ブラスバンドの毎日の迎えを祖母と祖父がしてくれています。祖母も仕事をしているのですが、私がやりたいと言ったことには全力で応援してくれ協力してくれます。

ただ、家族の中で1番ケンカをするのも祖母です。自分ができていないことを指摘されるとついつい反抗してしまい、口げんかだったり、すねて口をきかなかったりしてしまいます。

もう今年で小学生も終わり、これからは家事を手伝ったりして母や祖母の負担を減らし、祖母と庭の花の世話や野菜作りを一緒に楽しむ時間を増やしていこうと思います。

ばあば、これからもよろしくね。

入選作品

ばあちゃんの手作り梅シロップ

たけしま りん
砥部小学校 6年 竹島 凜 さん

私のばあちゃんは料理がとても上手で、遊びに行くといつもおいしいご飯や手作りケーキ、パンなどをたくさん作ってくれています。

その中でも私が1番楽しみにしているのが梅干しと梅シロップです。甘酸っぱい梅シロップを炭酸水で割って飲むのが大好きです。私のお父さんが小さい頃からこの梅干しと梅シロップを作っていて、よく食べたり飲んだりしていたよ、と聞きました。

でも、去年からばあちゃんの手が腫れて、あまり調子が良くなく、包丁も少しの時間しかにぎれなくなっていました。会いに行った時は、「早く治れ！！」とばあちゃんの手をさすっています。手の調子が少し良くなったら梅干しと梅シロップの作り方を教えてもらおうと思っています。次は私が作った梅シロップをばあちゃんに飲んでもらいたいので、しっかりとばあちゃんの味を受け継ぎたいを思います。

入選作品

私のお姉ちゃん

砥部中学校 1年 おおもり 大森 みさき 実咲 さん

お姉ちゃんはとても優しい。2 個上のお姉ちゃんの考え方と自分の考えは全然違う。だけどその中でも自分の話や考え方に真正面から向き合って話を聞いてくれる。お母さんやお父さんも同様耳をかたむけて話を聞いてくれたりしてくれるけど、年の近いお姉ちゃんが自分に向き合ってくれるのがとても嬉しかった。だけど自分との意見や考えが違うときは、

「それは自分が悪いと思うよ」

と言われて、悲しい気持ちになったことももちろんある。今の時代、自分に考え方や意見を真正面から言ってくれる人が少ないので、お姉ちゃんが自分の考えを受けとめてくれて、自分の考えに意見をのべてくれて、毎日嬉しいです。お姉ちゃんには自分をしっかり持っていて自分と違う物や考えも持っている。お姉ちゃんみたいな色々な考え方ができる人や意見を言える人になりたいです。

入選作品

この家族になれてよかった理由

砥部中学校 1年 こめい けんと 米井 健登 さん

ぼくの家族は4人と1匹います。母、父、兄、そして自分とねこがいます。母は、家事全ぱんをやってくれていて、勉強も分からないところがあったら教えてくれています。父は、仕事をして、家族を支えてくれています。兄は、仕事をしながら自分に野球を熱心に教えてくっていて、父も仕事をしながらでも教えてくれています。自分にこんなにしてくれる家族はあまりいないと思っている。父や兄から1番教えてくれる言葉は、「力だけでいくな。気持ちで勝負しろ」でした。その言葉を聞くと、なぜか体が熱くなるんです。だから「試合の時も打てるのかな」って思いました。

自分はこの家族が大好きです。もちろん怒られる時は怒られますよ。でも、それでも、逆にいいところがあるんじゃないかと思いました。生まれ変わるとしても、大好きな、勉強や野球を教えてくれてドライブにもつれてって来て、一緒に笑えるこの家族がいいです。

入選作品

命をつなぐということ

砥部中学校 1年 こいけ りゅうたろう
小池 龍太郎 さん

僕は、1人子です。そのため、たまに、

「なんで産まれてきて、何をするために産まれてきたのだろうか」と考えたりします。そのような時に、祖母の家にいき、祖母に聞いてみました。すると、祖母は家けい図を見せて、

「ほら、見てごらん。たくさんの人々が命をつないでいるのよ。祖母と祖父が母を産み、母と父があなたを産んだのよ。あなたはその命をつぎの子へつないでいくために産まれたのよ」

と言われ、その時に、生まれてきた意味が少しわかった気がしました。その家けい図は僕のひいひいひいおじいちゃんぐらいまでありました。その時僕は、

「ああ、こんなにも前から命をつないできているのだな。僕も次へ命をつなげないと！」

と感じました。僕はあの祖母の一言がなければ今も考え続けています。祖母の一言で僕の人生の第一歩をふみ出せたと思います。

入選作品

私の宝物

砥部中学校 1年 ^{いたに}井谷 ^{きょうか}杏華 さん

私の宝物は弟です。私と弟は 12 才はなれています。弟がおなかの中にいると聞いたときは、とてもうれしく、いつ産まれるのかとワクワクしていました。

「12 月 29 日」私はその日、友達と遊んでいました。家に帰るとお母さんが「おなかが変だ」と言っていました。祖母に急いで連絡をして病院に行きました。

それから約 30 分後「、弟が産まれた」という連絡と写真がきました。弟は小さく、可愛くて早く会いたいと毎日思っていました。

そんな弟が産まれてから 6 ヶ月、寝返りもハイハイも離乳食も食べれるようになりました。離乳食も最初は口の中に入れるだけだったけど、最近はもぐもぐと食べれるようになりました。

部活から疲れて帰ってきても笑顔で両手をのばして出むかえてくれます。私はそんな弟が大好きです。これからも弟の成長を見守っていきたいです。

入選作品

別人、されど、家族。

砥部中学校 1年 えんどう ゆうき
遠藤 裕希 さん

いつも共に暮らしている家族。しかし、私たちは血がつながっているだけであり別人である。しかし、家族は皆集まって暮らす。

私も両親と3人で平和に暮らしているいたって普通の家族だ。もちろん全員別人である。ただ、普通に、平和に暮らせているのは家族という関係に所以があるのではないだろうか。

私は13年間家族と過ごしているが、ほとんど毎日会っている。そこでする他愛もない会話や行動、互いに思っている感情が、言葉では表しきれない、世界に1つだけの、素敵な関係が生まれるのではないだろうか。

私はこの機会に、「家族のきずな」を考えた。そして、このきずなを維持するために、感謝して、尊敬して、でも対等な関係でこれからもずっとずっと家族で過ごせるように努力したい。そして、自分も両親も、「幸せ」に暮らせるようにしたい。

入選作品

剣道でうまれたきずな

砥部中学校 1年 うえだ りゅうせい
上田 龍 征 さん

ぼくは、剣道をしています。そして、お父さん、おじいちゃんも剣道をしています。

ぼくは、年中の時に剣道を始めました。始めたころは、おじいちゃんに教えてもらって楽しかったです。2年ごろから、お父さんに教えてもらって剣道をするようになり、お父さんは、おじいちゃんよりとてもきびしく、だんだん剣道がきれいになっていきました。ある日ぼくは、「剣道をやめたいな」と思うようになりました。ですがだんだん試合をするごとに勝つと「まだ勝ちたい」と思ってどんどん練習にはげみました。そしてお父さんも熱心に教えてくれて、その結果ここまで強くなることができました。

ぼくは、ふと思いました。「なんでここまで強くなれたのだろう」と思い考えてみると、「ここまで強くなれたのは、おじいちゃんとお父さんが熱心に教えてくれたからだ」と思いました。ここまで熱心に教えてくれたお父さんとおじいちゃんに感謝したいです。

入選作品

命について

砥部中学校 1年 つだ 津田 かな 栞花 さん

私が命の大切さを実感したのは2年生の時です。私が2年生の頃、ひいおばあちゃんが亡くなりました。私はまだ小さかったので死というのがなにかあまり分かっていませんでした。けれどひいおばあちゃんのそうしきを終え、ひいおばあちゃんの家に行くと死の実感がわいてきて涙が止まりませんでした。昨日まで楽しそうに笑っていた人がもうこの世におらず、一生会えないと思うと悲しさと同時にいつか自分もその日が来るといふきょうふがきて寝れないときもありました。そのことをお母さんに相談すると「いつか死は来るけれど、それまでの人生どう楽しむかが重要でしょ」と優しい言葉をかけてくれました。私はこの言葉を聞いて今まで怖かったものがすべてふき飛んだ気持ちになりました。

中学生になっても死という存在は恐ろしいものだけれど、お母さんが言ってくれたように自分が亡くなる時に「人生楽しかった」と胸をはって言えるようにがんばりたいです。

入選作品

家族の愛を感じたしゅんかん

砥部中学校 1年 あいばら 相原 みあ 心愛 さん

私は今年の春から中学生になりました。入学式を迎えるまではこれから始まる学校生活に心を躍らせていました。しかし、いざ中学生になると、忙しさに圧倒される日々でした。部活動や習い事で、家に帰る時間も遅くなりました。あっという間に終わってしまう1日にいつもあせっていました。本当は勉強も部活も習い事も全力で頑張りたいのに上手くリズムをつかめないばかりに時間が全然足りませんでした。ずっと憧れていた「何事も楽しく一生懸命に励む中学生」には程遠く、永遠に追いつけないようで苦しかったです。でも、そんな辛い気持ちから救ってくれたのは家族でした。私の気持ちにいち早く気付いて、いつも側で寄りそってくれました。時間の使い方のアドバイスもくれ、一緒に乗り越えてくれました。家族がいたから私はやりたいことを全力で楽しめるようになれました。今日という日も私は家族の愛に支えられています。いつもありがとう。

第5回「家族のきずなエッセイ」応募状況

小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	合計
2	20	8	55	98	84	139	406

本選考委員（敬称略）

委員長	小田 直行	元伊予市立北山崎小学校長
委員	町田 忠司	砥部町 PTA 連合会長
	山本 勝彦	砥部町教育委員会社会教育課課長
	中村 兼康	元砥部町立砥部中学校長

予備選考委員（敬称略）

委員長	森岡 春夫	元久万町立久万小学校長
委員	二神 和徳	元松山市立久米小学校長
	長谷 美保	元砥部町立宮内小学校長
	須之内くみ子	元久万高原町立畑野川小学校長
	川崎 ひとみ	元砥部町立麻生小学校長

第一次選考委員

愛媛砥部モラロジー事務所関係者 15名



協賛企業・個人 (50音順・敬称略)

アキ工業(株)	稲田書店
(有)伊予ハウジング	(有)岩本建設
愛媛銀行砥部支店	愛媛新聞エリアサービス砥部
エヒメセラム(株)	(株)小泉組
(株)寿住宅	(有)佐々木産業
里窯(有)	(株)四国シキシマパン
末広工業(株)	玉井産業(株)
砥部焼観光センター-炎の里	(株)ニシイチ
日本交通社(株)	原田農園
平岡米穀店	(株)藤原モータース
松下幸子	(有)美乃理屋
やまだ電気(有)	吉村設備
和田工作所	
愛媛砥部モラロジー事務所 関係者	

第5回 「家族のきずなエッセイ」作品集

発行日 令和6年12月8日

発行 愛媛砥部モラロジー事務所

791-2141 伊予郡砥部町岩谷口203

TEL & FAX 089-962-2270

(本誌を無断で転載することを禁じます)